

アートピアとっとり行動指針の中間評価（概要版）

- 「県内あらゆる場所でアートが花開く、創造性と活力に満ちた鳥取県（アートピアとっとり）」を目指すため、県の文化芸術の取組の方向性を示す「アートピアとっとり行動指針」（以下「行動指針」という。）を平成31年3月に策定。（計画期間は令和5年度末まで）※「地方の実情に即した文化芸術の推進に関する計画(地方文化芸術推進基本計画)」と位置づけている
- 行動指針には、「数値目標」について、「その達成に向けて関係者との連携協力を進めるとともに、『鳥取県文化芸術振興審議会』において、達成状況を点検・評価する」ことを定めている。中間年となる令和3年度に鳥取県文化芸術振興審議会において評価・審議をいただいた。

I. 基本的事項

1. 行動指針の目指す姿

県内のあらゆる場所でアートが花開く創造性と活力に満ちた鳥取県（アートピアとっとり）

※アートピア：

アート（芸術）とユートピア（理想社会）を合わせた造語

2. 基本方針及び施策の方向性

	基本方針	施策の方向性
I	とっとりで「アート」に親しむ～環境づくり～	(1)だれもがアートに親しむことができる機会の充実と環境整備
		(2)アートの拠点である文化施設の充実と新たな拠点づくり
II	とっどりの「アート」が育む・「アート」を育む～人づくり～	(1)子どものアート鑑賞・体験機会の充実
		(2)アートを支える様々な人材の育成
III	とっどりの「アート」で元気に～地域づくり～	(1)アーティスト等と共に創る地域のアート活動の推進
		(2)地域の「宝」を活かした活力ある地域づくり
		(3)美術館整備に向けた体制づくり

3. 中間評価の方法

鳥取県文化芸術振興審議会において、次の2点をについて、評価、審議をいただいた。

(1) 数値目標の達成度評価について

行動指針策定時に設定した各数値目標について、県政参画電子アンケート結果により、目標の達成度について評価・審議いただいた。

(2) 施策の方向性の取組評価について

行動指針の7つの施策の方向性について、令和元年度、2年度の取組状況、目標の達成状況及び指針の目標を達成するために今後必要と思われること等について評価・審議いただいた。

II. 数値目標の達成度評価

行動方針策定時と同内容の県政参画電子アンケートを実施した。

・実施対象 県政参画電子アンケート会員 676名

・回答 457名（回答率：67.6%）

<数値結果の比較>

区分	項目	鳥取県			国調査
		策定時 H30 (2018)	中間 R3 (2021)	目標 R6 (2024)	R3 (2021)
1	「過去1年間に、文化芸術を直接鑑賞したことがある」とする割合	80.3%	61.1%	85%	41.8%
2	「過去1年間に、文化芸術に関わる活動をしたことがある」とする割合	38.0%	19.0%	45%	14.2%
3	「鳥取県の文化芸術活動について、鑑賞・参加したことがある」とする割合	46.4%	37.6%	50%	—
4	「文化芸術を鑑賞したり習い事をしたりする機会など、鳥取県の文化的な環境に満足している」とする割合	35.9%	36.8%	40%	36.5%
5	文化芸術に関するボランティア数（スポーツ・文化・芸術・学術に関係したボランティア活動行動者率）	4.3% (2016)	— ※注	5%	— ※注

※注：国の社会生活基本調査（令和3年度）が未公表のため評価対象とせず。

※1、2、4に係る国調査は、文化庁「文化に関する世論調査」

<審議会による主な評価等>

- ・数値目標1～3の項目について、割合が減少しているのは、いずれもコロナ禍の影響が大きいと思われ、やむを得ない結果のため評価が難しい。
- ・コロナ禍においても新たな創意工夫をお願いしたい。

III. 施策の方向性の取組評価

<審議会の評価等>

施策の方向性	審議会の主な評価・意見
アートに親しむ機会の充実と環境整備	・コロナ禍で制約の多い中、オンラインの活用など創意工夫し積極的に取組がなされ、概ね順調である。自己評価及び県民の評価も肯定的である。
アートの拠点である文化施設の充実	・各種情報の集約・発信や文化芸術活動者の支援（情報提供、相談受付等）、活動者のネットワークづくりなど具体的な事業がなく取組が不十分。
子どものアート鑑賞・体験機会の充実	多岐にわたり子ども達がアートに触れる機会が増加、ジュニア県展の出品数が増えており、概ね順調である。
アートを支える人材の育成	伝統文化や伝統産業の分野の後継者育成は喫緊の課題であるが、コロナ禍とはいえ、成果がでているとは言い難い。
地域のアート活動の推進	県民の評価が他の項目に比べ否定的な割合が高いが、事業実績等成果をみると良いものが多い。取組をいかに県民に周知するかが課題である。
地域の「宝」を活かした活力ある地域づくり	県民の評価も肯定的な回答の割合が高く、コロナ禍にも関わらず概ね良い結果である。
美術館整備に向けた体制づくり	県・市の共同企画展、デジタルアーカイブ整備検討など、事業が着実に展開されているが、新しい美術館の姿がみえない。

IV 総括（今後の対応）

- 新型コロナの影響もあり、数値目標にかかる県民アンケート結果が策定時よりも下がるなど、数値目標達成度の進捗は遅れている。一方で、コロナ禍であっても可能な工夫を行い、アートピアとっとり実現に向けた取組を概ね推進することができた。
- 中間評価で得られた審議会の評価・意見や別途把握した市町村意見を踏まえ、各文化芸術関係事業を進めるとともに、広報活動の強化、人材の育成、県立美術館開館に向けた機運の醸成など、推進が不十分であることが浮き彫りとなった部分について、今後、県各課、関係団体及び市町村と連携し、重点的に取り組む。